

新作・世界初演

## くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』

全3回公演 2022年4/30(土)・5/2(月)・5/3(火・祝)

作 多和田葉子 / 作曲 平野一郎 / 演出 川口智子 / 振付 北村成美

# 出演者&スタッフ 募集！

## 【募集要項】



2022年春、「くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』」が世界初演を迎えます。  
国立市出身の作家・多和田葉子さんの書き下ろし台本によるこの舞台を、  
第一線で活躍する出演者・スタッフとともに一緒につくりませんか？  
みなさんの熱い応募を心よりお待ちしております！

出演してみたい方⇒p.2  
スタッフに挑戦してみたい方⇒p.4  
出演者・スタッフ共通⇒p.6

主催：公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団

※この募集要項・応募用紙は当財団HPからダウンロードできます。

<https://kuzaidan.or.jp/hall/> 「トップページ」→「催し物情報」→「参加者募集」

**くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』 あらすじ**

天満宮のお祭りの夜。遠くから聞こえてくるお囃子。「でんでこ でこでん」。その匂いに誘われ、祭りの夜にひとり迷い込んだクーニーが会ったのは、この地に大洪水と豊穡をもたらす金魚。金魚が歌う「君の探している人は 百年前に死んでしまったかもしれない 百年後に生まれてくるのかもしれない」。縄文から現代まで、多和田葉子が描く国立の精神地図が、くにたちの境界を超えて世界の今を見せる。

**《募集キャスト》** コーラス 24名（5歳以上～何歳でも／混声）

くにたちオペラの主要を担うコーラス出演者です。舞台および声楽の経験の有無は問いません。リハーサル開始後に、ソロ担当の配役を行います（ダブルキャストを予定）。パート分けは当方で行うことをご了承ください。

**《応募資格》**

- ① 企画に興味を持ち、他の参加者と協力しながら最後まで一緒に舞台づくりに参加する責任能力があること
- ② 決められた稽古日程および本番日程に参加できること  
⇒p.6のスケジュールを必ず確認してください
- ③ Eメール連絡が可能であること  
また当方からの連絡・問いかけに必ずお応えいただけるコミュニケーション能力があること
- ④ 顔・名前・氏名の公表による広報にご協力いただけること
- ⑤ 〈こども出演者〉2021年8月現在、5歳以上の方 ※未就学児は保護者も一緒にご参加ください
- ⑥ 〈18歳未満〉事前に保護者の承諾を得ている方

**《出演者選考》**

第一次選考：書類選考

選考結果を、8月10日（火）までに郵送でお知らせします

第二次選考：オーディション（会場：くにたち市民芸術小ホール）

2021年8月28日（土）①10：30～12：00 ②13：00～14：30

③15：00～16：30 ④17：00～18：30

2021年8月29日（日）⑤10：30～12：00 ⑥13：00～14：30

⑦15：00～16：30

※上記①～⑦の時間帯から、一次選考通過通知で指定します

※参加不可の時間帯がある場合は、応募時に必ずお伝えください

選考内容：1. グループによる課題（歌、ダンス、演技）

オーディション当日に課題をお伝えします

2. 個人による課題（歌）

好きな曲を1曲歌ってください。ジャンルは問いません

伴奏（楽器・音源の持ち込み共に）使用不可

## 《結果発表》

9月6日（月）までに、芸小ホール担当者から郵送でご本人に直接ご連絡します

※選考結果についてのお問い合わせはご遠慮ください。

※選考の理由は採択・不採択にかかわらずお答えしません。ご了承ください。

※応募書類は返送いたしません。なお応募書類は当オーディション以外の目的では使用しません。

## 《審査料》

第一次選考、第二次選考（オーディション）：無料

## 《参加費》

参加費：30,000円（台本・楽譜代、衣装代（一部） +保険料 初回にお支払いください

※途中で参加を辞退されたり、出演をお断りすることになった場合でも、いったんお支払いいただいた参加費は原則として払い戻しできません。

※稽古や本番に参加するための交通費や宿泊費の支給はありません

※出演料のお支払いはありません

※チケット販売のノルマ等はありません

## 《審査員》

平野一郎（作曲家） / 川口智子（演出家） / 北村成美（振付家）

吉川真澄（ソプラノ） / 谷本喜基（コーラスマスター、8月28日のみ）

※各氏のプロフィールは p.8 参照

## 《応募方法》

必要事項を記載した「応募用紙」と「画像・動画撮影とその使用に関する同意書」および「顔写真」を、郵送あるいは芸術小ホール窓口へご持参ください。

申込期間 6月15日（火）～8月2日（月） ※当日の消印有効

申込・問合せ先 〒186-0003

国立市富士見台 2-48-1 く にたち市民芸術小ホール く にたちオペラ係  
(第2・4木曜日休館)

TEL 042-574-1515 E-mail:saito @kuzaidan.or.jp (件名「オペラ出演応募」)

くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』 あらすじ

天満宮のお祭りの夜。遠くから聞こえてくるお囃子。「でんでこ でこでん」。その匂いに誘われ、祭りの夜にひとり迷い込んだクーニーが出会ったのは、この地に大洪水と豊穡をもたらす金魚。金魚が歌う「君の探している人は 百年前に死んでしまったかもしれない 百年後に生まれてくるのかもしれない」。縄文から現代まで、多和田葉子が描く国立の精神地図が、くにたちの境界を超えて世界の今を見せる。

《募集スタッフ》 演出助手 2 名、振付助手 2 名、舞台監督助手 2 名

舞台づくりに関わりたい、舞台芸術にプロとしてかかわっていきたい、裏方としてこの企画に参加したい方を募集します。経験の有無は問いません。

《応募資格》

- ① 企画に興味を持ち、他の参加者と協力しながら最後まで一緒に舞台づくりに参加する責任能力があること
- ② 決められた稽古日程および本番日程、他必要な打ち合わせや準備の日程に参加できること  
⇒p.6 のスケジュールを必ず確認してください
- ③ Eメール連絡が可能であること
- ④ 顔・名前・氏名の公表による広報にご協力いただけること

《選考》

第一次選考：書類選考

選考結果を、8月10日（火）までに郵送でお知らせします

第二次選考：面接（会場：くにたち市民芸術小ホール 地下音楽練習室）

2021年8月30日（月） 11:00～18:00 のうち15分～30分程度

※上記の時間帯から、一次選考通過通知で指定します

※上記時間帯の参加がどうしても不可の場合は、応募時に必ずお伝えください

《結果発表》

9月6日（月）までに、芸小ホール担当者からメールでご本人に直接ご連絡します

※選考結果についての お問い合わせはご遠慮ください。

※選考の理由は採択・不採択にかかわらずお答えしません。ご了承ください。

※応募書類は返送いたしません。なお応募書類は当選考以外の目的では使用しません。

《参加費》

第一次選考、第二次選考：無料

参加費：30,000円（台本・楽譜代、研修代）+保険料 ※初回にお支払いください

研修補助費：研修の補助費として、稽古や本番にかかる交通費（実費、1日上限1,000円）をお支払いします。

宿泊を伴う場合、遠方よりの参加について、上限額を越える補助はありません。

※いったんお支払いいただいた参加費は原則として払い戻しできません。

### 《面接担当》

川口智子（演出家） / 北村成美（振付家） / 伊東龍彦（舞台監督） / 齊藤かおり（プロデューサー）

※各氏のプロフィールは p.8～参照

### 《応募方法》

必要事項を記載した「応募用紙」と「画像・動画撮影とその使用に関する同意書」および「顔写真」を、郵送あるいは芸術小ホール窓口へご持参ください。

申込期間 6月15日（火）～8月2日（月） ※当日の消印有効

申込・問合せ先 〒186-0003

国立市富士見台 2-48-1 く にたち市民芸術小ホール く にたちオペラ係

（第2・4木曜日休館）

TEL 042-574-1515 E-mail:saito @kuzaidan.or.jp（件名「オペラスタッフ応募」）

出演者&スタッフ共通

《リハーサル予定: 変更の可能性があります》

※ワークショップ・稽古時間は、原則として土日祝の午前・午後、平日の夜間に行います

※原則、くにたち市民芸術小ホール内の施設で行います

※オーディション合格後、スケジュール調整にご協力ください。

★5月23日現在での予定

内容	日時	備考
全キャスト・スタッフ顔合わせ	11/5 (金) 19時 または 11/7 (日)	
ワークショップ全3回	11/13 (土)・12/4 (土)・12/5 (日)	各日2コマずつ (10:00~12:00 と 13:00~15:00)
譜読み・歌稽古 全5回	11/20 (土)・11/27 (土)・12/12 (日)・ 12/18 (土)・12/25 (土)	13:00~17:00
コーラス・歌稽古 全12回	1/8 (土)・1/9 (日)・1/22(土)・1/23 (日)・1/29 (土)・1/30 (日)・2/6 (日)・2/11 (金・祝)・2/19 (土)・ 2/20 (日)・2/26 (土)・2/27 (日)	・パートごとの練習になる場合も あります。 ・原則として13:00~17:00。 ソリストは、加えて同日10:00~ 12:00も。
立ち稽古 全17回	3/5 (土)、3/6 (日)、3/12 (土)、3/13 (日)、3/19 (土)、3/20 (日)、3/21 (月・祝)、3/26 (土)、3/27 (日)、 4/2 (土)、4/3 (日)、4/9 (土)、4/10 (日)、4/16(土)、4/17(日)、4/23(土)	・稽古の進捗によりお休みになる 場合もあります。 ・各日10:00~12:00 と 13:00~ 18:00
オケ合わせ稽古 全4回	4/24 (日)、4/25 (月)、4/26 (火)、 4/27 (水)	時間未定
ゲネプロA,B 計2回	4/29 (金・祝)	時間未定

本番公演 4/30 (土)・5/2 (月)・5/3 (火・祝)

# くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』

## 日程

2022年4月30日（土）、5月2日（月）、5月3日（火・祝）

全3回公演 上演時間およそ120分（途中休憩あり）

## 会場

くにたち市民芸術小ホール ホール

## 幕構成・登場人物

第1幕 「天満宮のお祭り」 クーニー\* / 金魚 / クーニーの姉\* / コーラス

第2幕 「ヤヤホの宿」 宿の女主人 / 旅の男 / 旅の女

第3幕 「むずかしい時代」 子供\* / 祖母 / コーラス

第4幕 「昭和の未来都市」 少女1\* / 少年1\* / 少女2\* / 少年2\*

第5幕 「あまのじゃくのあまのがわ」 ターチ\* / クーニー\* / コーラス

※市民出演者からソリストとしてキャスティング予定の役

### スタッフ：

作 多和田葉子

作曲 平野一郎

演出 川口智子

振付 北村成美

舞台監督 伊東龍彦

照明 横原由祐

美術 谷口智子

衣裳 giee 岩戸洋一・本柳里美

コーラスマスター 谷本喜基

稽古ピアニスト 水戸見弥子

スティルト指導 せせらぎ（古賀彰吾）

制作 齊藤かおり（くにたち市民芸術小ホール）

### 出演：

市民出演者 24名

吉川真澄（ソプラノ）

渡辺ゆき（アルト）

中嶋俊晴（カウンターテナー）

平野太一郎（テノール）

奥秋大樹（バス）

滝本直子（俳優）

山田宗一郎（俳優）

池上英樹（打楽器）

多久潤一郎（フルート）

鈴木広志（サクソフォン）

佐藤芳明（アコーディオン）

西谷牧人（チェロ）

悪原至、齋藤綾乃、新野将之、三神絵里子（打楽器）

主催：公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団

助成：令和4年度実施事業として各助成金申請予定

後援（予定）：国立市、国立市教育委員会

## アーティストメッセージ

### 多和田 葉子（たわだ ようこ）・作家、詩人



国立は小さな市ですが、そこには縄文時代、江戸時代、昭和の歴史が刻まれ、神社の境内や多摩川には不思議な霊たちも住んでいるし、歩道橋や桜並木には歩行者や障害者のことを考える国立の心が宿っています。自分の育った国立のことを思い出しながらベルリンで書いたオペラです。

《プロフィール》ベルリン在住。国立市立国立第五小学校、第一中学校を経て、都立立川高校、早稲田大学文学部を卒業。日本語、ドイツ語での創作が世界的に高く評価されている。芥川賞、野間文芸賞、早稲田大学逍遥大賞のほか、2016年クライスト賞、2018年全米図書賞受賞。高瀬アキとの音楽性に富む朗読パフォーマンスを継続し、さいたまトリエンナーレに招聘されるなど活動は多岐にわたる。2017年くにたち文学賞審査員に就任し地域文化の発展に貢献。また2018年1月開催のケルン詩祭芸術監督に就任。2019年度朝日賞受賞、2020年紫綬褒章。

### 平野 一郎（ひらの いちろう）・作曲家



地球まるごと見えない水に浸されて、日常と非日常がひっくり返ったこの兩年。作曲家は多和田葉子さんから溢れた言葉の海へ深海魚になって潜り込み、闇深き水底に光るコトダマオトダマをひとつまたひとつ、耳を澄ませて追いかけて来ました。くにたちオペラ「あの町は今日もお祭り」…ヤヤホの神社では夜店の金魚が喋り出し、タタマガワ沿いの宿屋では不思議な女将がほほえみ浮かべ、フジミミダイの校舎には晴れがましい未来讃歌が鳴り響く…くにたちオペラのひらく時空は、なんとなく懐かしいけど、どこか少しずつ狂って歪んで拗れて軋んで、だからこそ、隠されたホントウがふつつつ浮かび上がる場処。コドモとオトナと動物と異形がざわざわ往(ゆ)き交(か)うもう

ひとつの国立、もうひとつの日本、もうひとつの世界。

第九もオペラも受難曲も、古代ギリシャの昔から“コーラス（コロス）”とは、現実と虚構、観客と役者の中間で、舞台上のドラマを間近にみつめ、心を動かし、声をあげ、身をもって、ついには結末に関与する、この世に生きる人々の代表。だから市民がコーラスを担うのは、まさしく本来的なのです。全身全霊の挑戦、きっとたやすくはないでしょう。でも、表現の向こうの体現に、巧い拙いはありません。あなたも「あの町」の住人となって、今だからこそ結ばれる、オペラという名のお祭りにみんなと集い喜びませんか？

《プロフィール》丹後國宮津出身。京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。在学中より各地の祭礼とその音楽を巡る踏査を始動。2001年より作曲活動を本格開始、京都を拠点に日本の風土や伝承に根差した創作を展開。響きや調べ、声と言葉の根源をたずね、失われた身体性・全人性を呼び覚ます音楽世界を志す。日本交響楽振興財団作曲賞最上位・日本財団特別奨励賞、青山音楽賞、京都市芸術新人賞、現音富樫賞、藤堂音楽賞、京都府文化賞奨励賞等受賞。ISCM 世界音楽の日々2008 ヴィリニウス大会入選・参加。2011年「モノオペラ〈邪宗門〉」を発表。以後「四季の四部作」（吉川真澄）「二重協奏曲〈星巡ノ夜(ほしめぐりのよる)〉」（館野泉）「八幡大縁起(はちまんだいえんぎ)」（やわた市民音楽祭）「胡絃乱聲(こげんらんじょう)」（国立劇場）「とこよのはる」（森の会）等委嘱作品多数。17年出雲芸術アカデミー／コンポーザー・イン・レジデンス拝命、「出雲の春音楽祭」にて5年7作に亘る《連作交響神樂》（管弦楽+声楽）進行中。19年正月NHK8K番組《落慶～奈良・興福寺～》音楽制作。20年コロナ禍に際し“時ノ祀り二〇二〇臨時祭”をストリーミングにて展開。目下、くにたちオペラと同時進行で交響神樂第六番〈國讓(クニユズリ)〉を作曲中。



## 川口 智子（かわぐち ともこ）・演出家



劇場は小さなひとつの「まち」のようなものです。いろいろな人がいて、いろいろな考え方があって、いろいろな色や匂いがあります。人がたくさんいて賑わっているところもあれば、ちょっと暗い小道のような場所もあります。

今回のオペラは、出演者とスタッフ総勢100人くらいの人が集まって、これまたひとつの「まち」のようなオペラをつくりまします。つまり、関わる人全員がこの「まち」の登場人物になって、お互いにアイデアを交換したり、変化をしたり、時にはポカンとしたりしながら、動き続けるオペラをつくりまします。

今はまだ、どんな「まち」になるのかわかりません。集まった人たちで、どうしたらみんなが住みやすい「まち」になるかを考えまします。そして来年の春、このオペラを見に来てくれる人たちに「今日、劇場に来てよかった」（このまちに来てよかった！）と思ってもらえるように！！

今回は、お稽古と一緒に進行し、舞台監督の伊東さんをはじめスタッフと共に舞台をつくる「演出助手」の役割も募集まします。「演出助手」もやっぱり「まち」の登場人物です。100人の名前を覚えて、100人と毎日「おはよう！」と挨拶をする。経験は問いません。一緒にくにたちオペラをつくりましましょう！

《プロフィール》東京学芸大学大学院修了。佐藤信に師事。2008年より演出活動を開始し、海外劇作家の翻訳上演、アジアのアーティストとの協働作業、音楽・ダンス・伝統芸能等ジャンルを超えた創作を多数展開。イギリスの劇作家サラ・ケインの戯曲上演に長年取り組み、代表作のコンテンポラリー・パンク・オペラ『4時48分 精神崩壊』（2020年初演）は、イギリス・コロネット劇場への招へいが決まっている。そのほかの演出作品に多和田葉子複数の私 Vol.3『動物たちのバベル』（2018年）、音楽劇『メドゥーサの罫』（2016年、主催：草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル、清水寛二との共同演出）など。『多和田葉子／ハイナー・ミュラー 演劇表象の現場』（東京外国語出版会）、『多和田葉子の〈演劇〉を読む』（論創社）に創作ドキュメントを執筆。東京学芸大学非常勤講師、立教大学大学院兼任講師。  
www.tomococafe.com

## 北村 成美（きたむら しげみ）・振付家



オペラという荘厳な宮殿の中で歌い踊り演じる幸福な時間。その世界で自由自在に振る舞えるよう、しなやかな心と身体をつくり、その人にしか出来ない動きを引き出し合い、それぞれが独自の音を響かせて一つの音楽になる、オーケストラのようなダンスシーンをつくりまします。初心者の方こそ鮮やかに、得意な方には「ダンスリーダー」として舞台を牽引してもらいたいと思います。また振付家とともに全体を俯瞰し調整する「振付助手」も求めています。さまざまな世代、経験、役割を持つ人々が集まることこそが総合芸術です。あなたのご参加をお待ちしております。

《プロフィール》「生きる喜びと痛みを謳歌するたくましいダンス」を掲げ、国内外でのソロ作品上演を軸に、日本各地で市民参加によるコミュニティダンス作品、ミュージカルや演劇の振付、音楽家や美術家との共同製作、CMや映像作品を多数発表。障がいのある人となない人が共に踊る「湖南ダンスカンパニー」にてディレクターを務める。一般財団法人地域創造ダンス活性化支援事業登録アーティスト。

## 吉川 真澄（よしかわ ますみ）・ソプラノ



いったいどこからが始まりなのだろう？街は、歌は、オペラは。

多和田さんの言葉、平野さんの音楽が皆さんの身体を通り、息に乗って、新たな旅を始める。私たちはどんな依代となろうとしているのか？

大切にしている言葉に「情熱というものは伝染する」というのがあります。やっかいな伝染病が蔓延っていますが、もっと違った、人間の内側から湧いてくる、自分の生命の前から受け継ぐ、ワクワクする熱い情熱を集め、境目を滲ませながら、大きなエネルギーを爆発させましよう！もう、それはあなたの中で始まっています！！さあ、ご一緒ましよう！

《プロフィール》岸和田生まれ。間宮芳生作曲オペラ「ポボイ」をはじめ多くの作品の初演を務める。佐藤紀雄（ギター）と〈DUO うたほぎ〉を結成。独唱曲「四季の四部作」（平野一郎作曲）を委嘱するなど独創的な活動を展開。コロナ禍において“ひとりっきりのコンサート”を始動。CDは「Pop Song」「うたほぎ」「四季の四部作」等がある。松方音楽大賞受賞。佐治敬三賞受賞。東京混声合唱団レジデントメンバー。東京ホワイトハンドコーラス指導者。

## 谷本 喜基 (たにもと よしき)・コーラスマスター



なんと今回のオペラ公演は指揮者不在です。船でいう舵取り役がないということです。つまり船乗り一人ひとりがオールを持って、声を掛け合いながら目的地に向かってひたすらに漕がなければいけない。これは大変です！けれどこれが楽しいのです。

世界初演、誰も観たことがない新作オペラの世界をスコアを見ながら想像し、意見を交わしながら1から作り上げていきます。集まったメンバーで一丸となって臨むこのプロジェクト、私は合唱パートの盛り上げ役として精一杯楽しみます！是非、あなたも参加してみませんか？

《プロフィール》和歌山県出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。都内を中心に数々の合唱団の音楽監督・指導を務めるほか、指揮者、ピアニスト、またアンサンブル歌手としても精力的に活動している。室内合唱曲から管弦楽付き大規模合唱曲、オペラまでレパートリーは幅広い。2019年3月に東京藝大内で上演されたオペラ《長安悲恋》(松下功作曲・湯浅卓雄指揮)では同大学在学・卒業生で構成された特別合唱団の指揮を務め、公演を成功に導いた。

## 伊東 龍彦 (いとう たつひこ)・舞台監督

今回、私と一緒に舞台監督の助手をやっていただける方を募ります。経験よりやる気が重要ですので、プロフィールは問いません。しかし、舞台監督は朝一番に入り、夜最後に退館するのが常の「ブラック」な仕事なので、中高生の方は難しいかもしれません。(ダメではありません。応相談です。)

そもそも舞台監督とは何かを簡単にご説明します。

舞台監督は夢と現実の両方を常に意識しながら仕事をします。スタッフや出演者やその他大勢の関係者の話を聞く忍耐力と、それぞれのイメージを1つの舞台に集約する為にどうしたら良いかを現実的な視点で考える想像力、そして人を動かす為の説得力と、現場で起こる様々な事に対する冷静な判断を求められる仕事です。(どれも私は未だに自信がありませんが)

つまり、こんな大変な仕事は好きでなければやってられないので、結局は舞台監督の最も重要な条件は、「舞台が好きである事」になると思います。

色々書いてしまいましたが、まずは「やりたい！」と思った方は、是非ご応募ください。一緒に「くにたちオペラ」を作りましょう！

《プロフィール》学生時代に見た、舞踏の公演をキッカケに裏方の世界に出入りするようになりました。25才から4年間、舞台監督の仕事は北村雅則氏に師事。そこで舞台監督の厳しさと魅力を教えてもらいました。以後フリーランスとして、演劇・ダンス等の舞台公演に関わる。演出家の川口智子さんとも作品製作を共にしました。舞台監督の他に、舞台装置のプランや製作等、様々な仕事もやっています。

## 斉藤 かおり (さいとう かおり)・くにたち市民芸術小ホールプロデューサー

この作品に関わるすべての人たちが「参加できてよかった」と思える状況をつくるのが私の仕事です。できることなら「楽しい、やりがいを感じる」を超えて、それぞれが新しい自分自身に出会えるきっかけになれば。そして次に行きたい世界が個々に広がり、時には誰かとつながってみたりして、思いがけない出来事が次々に生まれて・・・それがまた、くにたちオペラ進化版に反映され甦る。育っていく作品は時代と共に生きていっているということ。今の芸小ホールでなければありえない、この世に唯一無二の作品を皆さんとともに創りたいのです。

《プロフィール》一般企業勤務、放送局系イベント制作会社・ドキュメンタリー映画プロダクション勤務等を経て2007年より現職。府中市民。隣町国立の思い出は、子どものころ両親とよく訪れた紀ノ国屋、国立駅近くの今はなき中国料理店ランタン園、谷保駅近くの商店街。